教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

池田 寛香・教育認知心理学コース・博士後期課程3年

国際学会：Society for Personality and Social Psychology Annual Convention

参加地・期間：Denver・2025/2/20-2/22

発表題目：Longitudinal changes in personal and historical nostalgia and well-being: A three year, three-wave panel survey

成果の概要

自身の発表

この度、私はSociety for Personality and Social PsychologyのAnnual Conventionに参加し、“Longitudinal changes in personal and historical nostalgia and well-being: A three year, three-wave panel survey”という題目でポスター発表を行いました。この研究は、自身の過去の経験を振り返って生じる個人的懐かしさの傾向と、文化の中で共有される知識や過去の時代への憧れから生じる歴史的懐かしさの傾向を測定し、協調的幸福感・人生満足度との縦断的関連性を検討したものです。対面形式で国際学会に参加するのは私にとって初めてのことでした。

他の研究者との交流・会場の様子

ポスター発表は広い展示ホールにて行われました。一度のポスター発表のセッションにつき200-300もの発表があり、その規模の大きさには驚かされました。また、これほど多くの研究発表があるならば、自身の発表が埋もれてしまうのではないかと不安も感じました。貴重な機会を逃さないように、自身の研究で引用している論文の著者に事前に連絡をとり、自身のポスター発表を見に来てもらうようお願いしました。ありがたいことに、その先生は快く応じてくださいました。先生がポスターのブースにいらっしゃった際には、ポスターの発表および質疑応答の他に、先生の研究により密接に関連している他の研究についてもその概要を説明し議論することができました。私がこれまで行ってきた研究プロジェクトについて先生に紹介できたことは、今回の学会参加の重要な成果であったと考えています。

その他にも、ポスターの前で足を止めてくださった方に話しかけて研究の概要を紹介し、その後質疑応答を行うという形式で色々な方と交流を行うことができました。今回の研究では日本独自の材料を用いていたため、質問を受けた際には写真を含むスライド資料をタブレットで呈示することが回答に役立ちました。

自身のポスター発表を終えた後は、色々なシンポジウムに参加しました。会場はどこも活気に溢れており、座席はすぐに埋まってしまうために立ったまま発表を聴く人も大勢いました。論文を読んで知っている先生方の発表が何件もあり、論文を日ごろ読むだけでは知ることができない研究への熱意や臨場感に心揺さぶられ、国際学会に参加することの意義と重要性を強く感じました。

本支援を受けた感想・今後の研究活動へのつながり

この支援がなければ、渡航費を用意することができず、国際学会への参加を諦めていたかもしれません。金銭面・心理面の双方において、本支援は非常に強力なサポートであり貴重なものでした。

そして、この国際学会への参加を通して、色々な研究者に対して積極的に連絡を取る重要性、自身の研究をアピールする方法などについて多くの学びを得ました。今後も、この学びを活かして研究を進め、国際学会での発表を積極的に行いたいと思います。改めて、この度のご支援に心より御礼申し上げます。